

食と温泉の国の オーケストラ!

山形交響楽団専務理事(兼)事務局長
西濱 秀樹氏



山響から「専務理事にならないか?」とお話しがあったのが2015年2月初旬。想像もしていなかった山形からの誘いに驚き、答えを出すために一度は行かねばと思った。そして2月11日、「松田理奈&山響メンバーによる室内楽公演」を聴くために山形を訪れた。会場のテルサで衝撃を受ける。演奏会の内容から、大阪の感覚で400人くらいの入場者を予想していたが、800の席は、ほぼ完売していた。舞台では飯森範親氏と作曲家池辺晋一郎氏がモーツァルトについて楽しそうに語る。時に笑いながら聴き入る人たち。山形の文化度の高さを実感した。

翌日、理事長の園部稔氏と会うために楽団事務局を訪問した。楽団理事長は一般的に名誉職に近い。危機的状況を乗り越えるために、理事長自らが事務局で陣頭指揮を執っている姿に、感動した。モーツァルトの交響曲全曲演奏を成し遂げた楽団のクオリティーの高さは全国屈指。県人口110

万人、山形市の人口25万人という都市の規模でプロ楽団が44年間存続できたのは奇跡的であり、県民が育んできた歴史と文化度の高さを実感した。関西フィルの経営再建後、教育事業に携わっていたが、この出会いによって、再びオーケストラの世界へ戻り、歴史ある山響の経営再建に携わることを決意した2日間だった。

経営再建の第一歩は「情報共有」。楽団員全員を前に経営方針や事業状況を説明し、議論する場を設け、その中で自分自身の報酬(楽団員と同様に賞与ストップ)も伝えた。現状を打開するためには、多くのことを包み隠さず開示し、共有することが出発点。誤解や疑問を払拭し、意見や提案を出せる場として、ユニオンの協力のもと「楽員総会」を立ち上げた。団員の疑問に答えるとともに、団員の提案、例えば「スクールコンサートを魅力あるパフォーマンスにしよう」というアイデアをすぐに実行できるようにした。

風通しの良さとスピード感。その上で、「山形交響楽団 ビジョン2016-2018」を打ち出した。「山響ブランドの確立」と、「山形発信を目指す」をテーマとし、山響ブランドの確立では、定期2回公演完全実施と入場率目標85%、ファン獲得のための年3回の新シリーズ、スクールコンサートの充実、山形4地域での定例公演プラス東北各地に活動拠点の展開—など数値目標を設定し提示した。山形発信を目指す—では、ビジョンの副題を「食と温泉の国のオーケストラの未来形を実現するために」としたように、様々な県内のイベント、ホールと連携して、山形県の魅力・文化・歴史を伝える存在でありたいとの思いを込めた。

◇

創立45年目を迎えた2016年、定期演奏会は飯森氏指揮の第5番「運命」で開幕しました。1年間、世界を舞台に活躍する指揮者とともに「英雄」、「田園」などベートーヴェンの交響曲全曲演奏に取り組み、交響曲が持つ感動と生命力をお届けます。刺激のある音楽家を招へいしてのプログラムも用意しています。

2019年度には山形駅西口に新県民文化施設の開館が予定されています。今の定演会場テルサより大きい文化施設でどのような山響を見せられるか。新ステージに向けて序奏が始まっています。再建は端緒についたばかりです。会議所会員の皆さまのご支援よろしくをお願いします。